

自由英作文の書き方

1.書き方の手順

(1)とりあえずこの手の問題の一般的ポイントは

- ①まず、与えられたテーマに対して、日本語でそれを書いてみる（細かい手順は下記を参照）。
- ②無理して難解な語彙や構文を使う必要はない。平易で、自分の書ける範囲内の英文を作成すればよい。気張りすぎないこと。
- ③英語では、75~100語程度の、比較的短い長さのエッセイの場合は、段落分けをせず、全体をひとつのパラグラフ(段落)にまとめてしまうのが一般的。
ただ、複数のパラグラフに分けて書く場合の注意点として、パラグラフの書き出しと改行箇所は、必ず1センチ程度スペースをあけ、字下げをするようにすること。
- ④最後に〇〇字と、自分の文章の字数を書いておく。
- ⑤指定字数のプラスマイナス10%が許容範囲(つまり指定字数が100字なら、90~110字程度で作文をまとめる)。
- ⑥丁寧に読みやすい字体で書くことを忘れずに(つまり採点官も人間だということ。いくら合格ラインの英文を書けていても、書きなぐったような書き方をしたり、スペルミスととられかねないような雑な書き方をしないこと)。

(2) 100語程度でまとめる場合、次のような順序でまとめていくのがよい。

第1文…与えられたテーマに対して「賛成」「反対」「どちらでも無い」いずれかの自分なりの主張を述べる(できれば、自分のこれから書く文章全体の方向性を大まかに暗示させるようなものが書ければ理想的)。その際、あまり自分の主義主張にとらわれ過ぎないこと。とりあえず文章として書きやすそうな方を自分の主張として書こう。

書き出しとしては

I think[believe, suppose] that S+V~. 「私は~だと思う」

I am sure[certain] that S+V~. 「私は~だと確信している」

In my opinion, S+V~. 「私の意見としては、~だ」

As far as I'm concerned, S + V～. 「私に関する限り～だ」

As for me, S + V～. 「私としては～だ」

など。また、指定字数が多い場合などは自らの主張の前に「譲歩」の英文を入れると字数が稼げる。たとえば

Generally speaking, S + V～. But[However,] I think that S + V….

「一般的に言えば～だ。がしかし、私は…と思う」

I know most people say[think] S+V～. But as far as I'm concerned,S+V…

「大半の人が～だと言っている[考えている]のは知っている。しかし私に関する限り…だ」

It is true that S + V～. But[However,] I think that S + V….

「なるほど～だ。がしかし、わたしは…と思う」

①「賛成」の表現。

I agree with A. 「私は～に賛成だ」

I agree that S + V～.

I am for A.

I support A.

②「反対」の表現。

I disagree[don't agree] with A. 「私は～に反対だ」

I disagree[don't agree] that S + V～.

I am against A.

I oppose[object to] A.

第2文以降…そのトピックに関する具体的な例や、理由(根拠)。

①具体例の書き出しとしては

For example,

For instance,

To take[give] some examples,

「たとえば」

} S+V～

Let us take some examples. S+V~

「いくつか例を挙げてみよう」

In the first place, S+V~

In the second place, S+V~

☞これらは「具体例の列挙」「具体的理由の列挙」いずれにも使える。

Firstly[to begin with], S+V~

Secondly, S+V~

Thirdly, S+V~

Finally, S+V~

②具体的理由としては、

One reason is that S+V~. Another reason is that S+V~.

「(その)ひとつの理由は~だ。そしてもう一つの理由は…だ」

☞更に続けなければ The third reason is that S+V~.等とする。

③その他のつなぎ語

1. 「追加」

In addition to this, S+V~ 「このことに加えて(更に)、~だ」

=Besides this, S+V~

Not to mention this, S+V~ 「このことは言うまでもなく、~だ」

=to say nothing of this, S+V~

Besides, S+V~ 「おまけに~」

=moreover =what is more

=furthermore =additionally

=in addition

2. 「対比」

Nevertheless, S+V~ 「にもかかわらず~だ」

=nonetheless,

=all the same,

In[By] contrast, S+V~ 「(それとは)対照的に~だ」

In[By] comparison, S+V～「くらべてみると～だ」

On the contrary, S+V～「それどころか(これに反して)～だ」

On the other hand, S+V～「他方では(その一方で)、～だ」

3. 「列挙」

First of all[First(ly)] A, Second(ly) B, Third(ly) C, Finally[Lastly] D

「まず第一にA。第二にB。第三にC。最後にD」

4. 「提案」

It would be better (for A) to do[原形]～.

「(Aが)～するのがより良いだろう」

It would be beneficial[a good idea/ helpful] (for A) to do[原形]～.

「(Aが)～するのが有益(良い)だろう」

One solution would be to do[原形]～[that S+V～].

「ひとつの解決策としては～することだ」

My suggestion[proposal] is that S+V～.

「私の提案は～だ」

I want to suggest[propose] that S+V～.

「わたしは～することを提案したい」

最終文…第1文に沿ったまとめ(自らの主張の再提示)。

ここで、第一文で既に述べた意見や主張をそのまま同じ表現で繰り返すのは好ましくない。少し異なった角度からの議論や、より総括的な結論部とすることが望ましい。また、全体の流れから、改めて結論部を必要としない場合には、この部分を省略してもいい。

具体的な書き出しとしては、

Therefore[Accordingly, consequently], I think[believe] S+V～

「それ故～だとわたしは思う」

④書き出しの第一文を、I think S+V～. ではじめた場合、最後の締めも I think S+V～. では、能がないから、締めは I believe[suppose] S+V～. I consider O [to be] C. といった表現に変えるなどの工夫はしたい。

So I conclude that S+V～. 「だからわたしは～と結論づける」

In conclusion, I believe S+V～. 「結論として～だ」

Ⓢ 日本語に於いて「as a conclusion,」などとしないうに。

This is why I think[believe] S+V～. 「こういうわけで～と思う」

Ⓢ もちろんそれぞれの文が、2つのセンテンスになっても構わないが、各センテンス同士に関連性を持たせることが必要。

Ⓢ もちろん以下のような英文作成における基本事項もチェックしよう。

- ①できるだけ、受験で習った頻出の構文、決まり文句を活用する。英文のレベルを下げすぎて中学英語のようになると、採点者の心証も悪くなる。
- ②基本的な文法ルールミスを防ぐ。
 1. 「冠詞」の用法、「可算名詞、不可算名詞」の使い分けは大丈夫か。
 2. 「人称代名詞」、「指示代名詞」が元の名詞と、数(単数・複数)、性(男性・女性)が合っているか。3単現のsなどの付け忘れはないか。
 3. 「時制」は合っているか。
 4. 態(受身・能動)は合っているか。
 5. スペルミスはないか。
 6. remember の後の不定詞、動名詞といったような語法上のミスはないか。

2.自由英作文の採点基準

Ⓢ 自由英作文がどのように採点官によって採点されるのか、その基準とはなんなのかを知っておくと、自分が受験者として答案を書く際にヒントになる点が多い。

例えば全体が合計40点満点の問題の場合、

- (1)形式点：5点
- (2)内容点：10点
- (3)文法点：20点
- (4)表現力：5点

というのが一般的な配点となっている。それぞれのポイントについてみてみよう。

(1)形式点

- ①全体がひとつのパラグラフから構成されていないものは2点減。
- ②書き出し、改行がインデント(字下げ)されていないものは各2点減。
- ③規定の語数に満たないもの、あるいは語数が多すぎるものは3点減。基本的には、例えば100字程度で書けという指定があった場合、90字以上110字以内程度が望ましい(つまりプラスマイナス1割)。

(2)内容点

指定された問題の指示に対して、解答全体の内容と構成が10—9—8—7—6—5—4—3—2—1—0点の基準で採点される。

(3)文法点

- ①軽度の文法ミス、スペルミス等は各1点減。
- ②関係詞や同格の that 等の節レベルの文法ミスは程度に応じて各1～2点減。
- ③センテンスレベルで全く意味をなさない重度のミスは程度に応じて各2～3点減。
- ④ただし、20点を超える減点はしない。

(4)表現力

英作文の表現力。語彙力等に関して 5—4—3—2—1—0点で採点される。